

46

千代田区景観まちづくり重要物件

万世橋

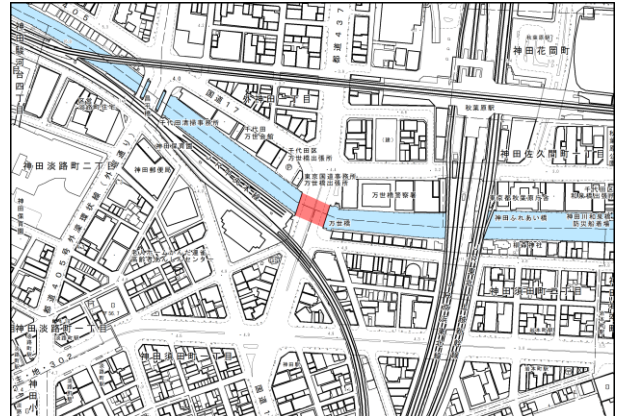
指定日 2007（平成 19）年 3 月 28 日

所在地 神田須田町一丁目 25 番地, 二丁目 23 番地先～外神田一丁目 1, 16 番先(神田川)

設計者 -

竣工 1930（昭和 5）年

文化財等指定状況 東京都選定歴史的建造物



▲万世橋全景

歴史・文化的特徴

初代の橋は現在の橋よりやや上流にあり、通称めがね橋、などと呼ばれ親しまれていましたが、万世橋駅建設のため、1906（明治39）年に解体されています。

現在の万世橋は1884（明治17）年に架けられた木橋が発祥で、昌平橋→新万世橋→万世橋と名称が変わっています。震災当時は屈指の繁華街であり、親柱のデザインなどにそれが反映されています。

震災復興橋梁のひとつです。

意匠・構造の特徴

簡素ですが力強い鉄筋コンクリート造アーチ橋です。

アールデコ調の橋灯が付いている大きな親柱が特徴的で、親柱自体がランドマーク的存在となっています。手すりは花柄の金属製であり、路面も化粧舗装されています。

橋は直下を走る銀座線と一体で作られています。



◀万世橋の
親柱



▲花柄の高欄と化粧舗装された路面

周辺景観との関係

歩行者の視線からは、アールデコ調の親柱、花模様の手すりが目に入ります。

橋上は開放的な空間となっています。複数の道路が集まる橋であり、周辺から橋がよく見え、親柱はランドマーク的存在となっています。煉瓦の旧万世橋駅高架橋と対比的な景観を形成しています。

親柱や広々とした橋上の空間が、秋葉原電気街へのゲート的な役割を演出しています。

水面からは、石造風の印象的なアーチをきれいに見ることができます。

JR 総武線・中央線からは、旧万世橋とともに橋の全景をよく見ることができます。